

スマートインターチェンジの整備状況 ～2016年度末までに6カ所が開通します。～

中日本高速道路株式会社は、高速道路の有効利用や地域の活性化を促進するためスマートインターチェンジ（以下、スマートIC）の整備を着実かつ効率的に進めています。

2016年度は、6カ所のスマートICが開通し、3月末には全28カ所のスマートICがご利用できることとなります。また、2017年度以降の完成を予定している箇所についても、地域の皆さまのご期待に応えられるよう事業を一層推進してまいります。

■2016年度に開通するスマートIC

道路名	スマートIC名称	形式	開通日時
首都圏中央連絡自動車道	八王子西IC（関越道方面出入口）	本線直結型	2016年12月24日（土）15時
東名高速道路	<small>みかたはら</small> 三方原スマートIC	SA・PA 接続型	2017年3月18日（土）13時
新東名高速道路	<small>するがわんぬまづ</small> 駿河湾沼津スマートIC	SA・PA 接続型	2017年3月18日（土）16時
北陸自動車道	<small>おだにじょう</small> 小谷城スマートIC	本線直結型	2017年3月25日（土）15時
舞鶴若狭自動車道	<small>つるがみなみ</small> 敦賀南スマートIC	本線直結型	2017年3月25日（土）15時
中央自動車道	<small>ふえふきやつしろ</small> 笛吹八代スマートIC	本線直結型	2017年3月26日（日）15時

⇒2016年度末時点で、28カ所のスマートICが供用。（位置図は別紙1参照）

■2017年度以降に完成を予定しているスマートIC

全27カ所（別紙1参照）

■スマートICとは

スマートICは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、通行可能な車両（料金の支払い方法を、ETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジです。利用車両が限定されているため、簡易な料金所の設置で済み、料金徴収員が不要なため、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。



本線直結型



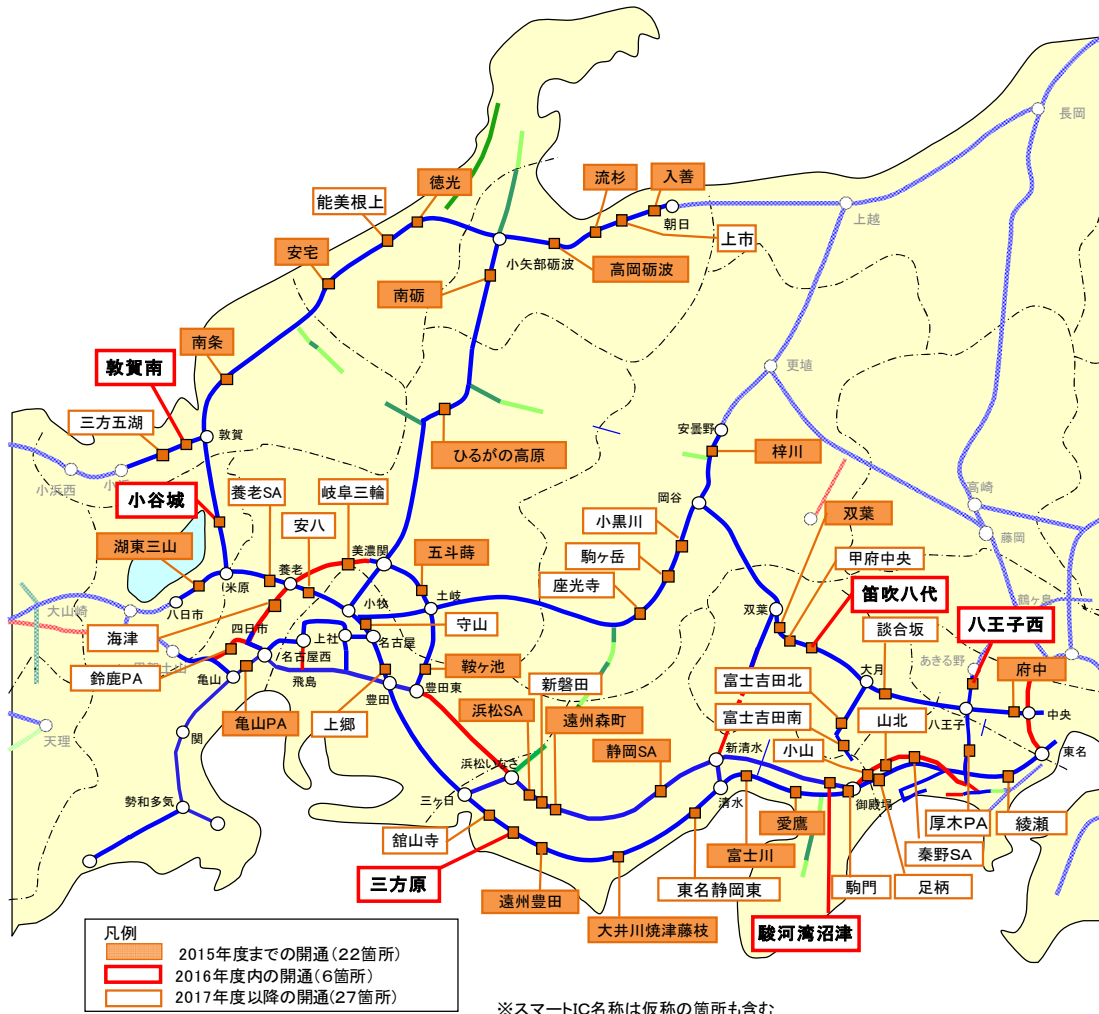
SA・PA接続型

〔図の出典：国土交通省HP〕

■スマートICの整備効果

高速道路の利便性向上、地域の活性化、物流の効率化 等 （別紙2参照）

【中日本高速道路(株)管内のスマートIC位置図】



【2017年度以降に完成を予定しているスマートIC】

名称	完成予定年度
東名高速道路	
綾瀬スマート	2017
東名静岡東スマート	2017
守山スマート	2017
館山寺スマート	2018 ※1
足柄スマート	2018
駒門スマート	2019
上郷スマート	2020 ※1
新東名高速道路	
新磐田スマート	2020 ※1
秦野SAスマート	2020
山北スマート	2020
小山スマート	2020
名神高速道路	
安八スマート	2017 ※1
養老SAスマート	2018
新名神高速道路	
鈴鹿PAスマート	2018

名称	完成予定年度
中央自動車道	
富士吉田北スマート	2017 ※1
小黒川スマート	2017
駒ヶ岳スマート	2017
談合坂スマート	2019 ※1
甲府中央スマート	2019
座光寺スマート	2020
北陸自動車道	
能美根上スマート	2017
上市スマート	2020
舞鶴若狭自動車道	
三方五湖スマート	2017
首都圏中央連絡自動車道(圏央道)	
厚木PAスマート	2018
東富士五湖道路	
富士吉田南スマート	2020
東海環状自動車道	
岐阜三輪スマート	※2
海津スマート	※2

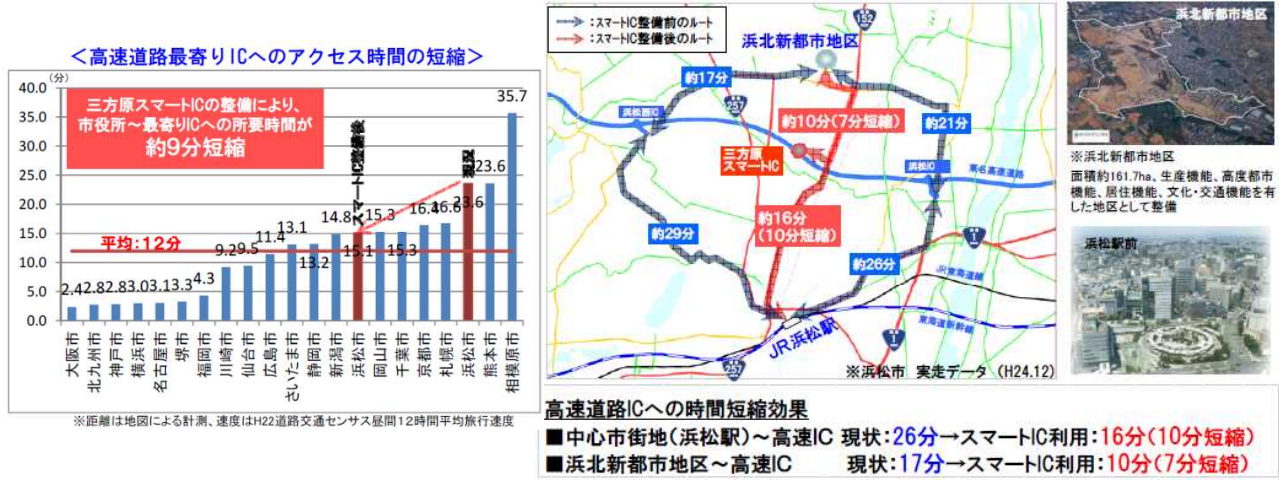
※1：当初 2016 年度の完成予定でしたが、地区協議会で協議の結果、見直しています。

※2：国土交通省と共同で事業を実施する建設区間にかかるスマートICの完成予定年度については、完成時期が見通された段階で改めてお知らせいたします。

【スマートICの整備効果】

高速道路の利便性向上（アクセスの向上）

【三方原スマートICの例】 周辺住宅地や開発地区、中心市街地から高速道路へのアクセスが向上します。



地域の活性化（観光振興）

【小谷城スマートICの例】 滋賀県湖北地域の観光地へのアクセスが向上し、観光振興が期待されます。



物流の効率化（時間短縮、定時制の確保）

【駿河湾沼津スマートICの例】

- 重要港湾や鉄道貨物駅予定地、工業団地からのアクセス向上により産業活動の活性化が期待されます。
- 市街地の慢性的な渋滞箇所を避けて新東名高速道路にアクセスし、定時制が確保されます。

